

チャイルドケアとアニマルケア

公益社団法人 日本動物病院福祉協会

(JAHA=Japanese Animal Hospital Association)

は1987年に厚生労働省より社団法人の設立許可を受けた動物病院の協会であり、動物を介在させたアニマルセラピーの活動を1986年以來行なっています。

具体的には、動物とふれあうことによる情緒的な安定や生活の質の向上を目的とする「動物介在活動」、人の医療現場で専門的な治療行為として行なわれる補助療法である「動物介在療法」、小学校等に動物とともに訪問し、動物との正しいふれあい方法や命の大切さを学び情緒教育としても活用されている「動物介在教育」を実施しています。

これらの活動は、動物の健康、福祉、教育にも配慮したものでなければならぬという方針を明確にし、それを具体化するマニュアルを作成し、活動を行っています。

また日小獣で推進している学校飼育動物についての講演を行います。

Child Care and Animal Care

JAHA is an association of animal hospitals set up with permission from Japan's Ministry of Health, Labour and Welfare in 1987. The Association had been promoting animal-assisted therapy activities with animal intervention since 1986.

In practical terms, JAHA conducts 'animal intervention activities' which aim to provide increased emotional stability and improve quality of life for people through contact with animals. It also conducts 'animal intervention therapy' (a substitution specialist treatment for human medical care), and 'animal intervention education' which, through training of emotions, teaches young people (by visiting elementary schools with animals) about the correct way to handle animals and the importance of 'life'.

All these activities are only conducted under the clearly understood policy that consideration is also given to the health, welfare and training of animals. The Association has produced practical manuals and, also in the educational field, provides lectures on keeping school animals.

ワークショップ
Workshop

VIII

■ ワークショップ VIII 「チャイルドケアとアニマルケア」

日時及び会場：12月13日(日) 13:00～16:00 501会議室

主催：公益社団法人 日本動物病院福祉協会

座長：柴内裕子氏 (公益社団法人 日本動物病院福祉協会 顧問 / 赤坂動物病院 院長)

法人サポーター：ロイヤルカナンジャパン合同会社

司会：戸塚裕久氏 (公益社団法人 日本動物病院福祉協会 CAPP 委員長)

スピーカー：

第1部：子どもたちに、意義ある動物体験を与えるために

中川 美穂子氏 (社団法人 日本獣医師会 学校動物飼育支援検討委員会副委員長 / 中川動物病院長 /

全国学校飼育動物研究会 事務局長 / 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰)

「人と動物を大切に作るヒューマン・アニマル・ボンド教育の実践」

前川哲也氏 (お茶の水女子大学附属中学校 教諭 (理科) /

NPO 法人 日本ヒューマン・アニマル・ボンドソサエティ (J-HABS) 理事 /

気象予報士 / 環境カウンセラー (市民))

第2部：21世紀子どもたちを支える動物たち 公益社団法人 日本動物病院福祉協会 CAPP 活動から

柴内 裕子氏 (公益社団法人 日本動物病院福祉協会 顧問 / 赤坂動物病院 院長)

「人と動物の健康と福祉と教育に役立つ伴侶動物 (子どもたちと動物)」

「アニマルセラピーの現場再現」

ワークショップデモンストレーションと CAPP 活動の現場

AAA,AAT,AAE 活動を療養士、CAPP セラピー犬、ボランティアの参加を頂いて再現します。

■ Workshop VIII "Child Care and Animal Care"

Dates : Sunday 13th December 13:00 ~ 16:00

Venue : Meeting Room 501

Organizer : Japanese Animal Hospital Association (JAHA)

Chairperson: Dr. Hiroko SHIBANAI (Advisor, Japanese Animal Hospital Association (JAHA) /

Director, Akasaka Animal Hospital)

Corporate Supporter : ROYAL CANIN JAPON, Inc.

MC : Dr. Hirohisa TOTSUKA (Chairperson, Companion Animal Partnership Program Committee,

Japanese Animal Hospital Association (JAHA))

Speakers :

Part 1 : 'Giving Meaningful Experiences to Children'

Dr. Mihoko NAKAGAWA

(Vice-Chair for Humane & Science Education Utilizing School-owned Animals,

Japan Veterinary Medical Association / Director, Nakagawa Animal Hospital /

Secretary-General, Society for Humane & Science Education Utilizing School-owned Animals /

Presider, Japanese Veterinary Council for School-owned Animals)

'Practicing Human-Animal Bond Education that Values People and Animals'

Dr. Tetsuya MAEKAWA (Science Teacher, Junior High School of Ochanomizu University Director,

NPO Japan Human Animal Bond Society (J-HABS)

/ Meteorologists / Environment Counselor (Citizen)

Part2: '21st Century - Animals which support children:

the CAPP activities of the Japan Animal Hospital Association"

Dr. Hiroko SHIBANAI (Advisor, Japanese Animal Hospital Association (JAHA) /

Director, Akasaka Animal Hospital)

'The Value of Companion Animals to People's Health, Welfare & Education (Children and Animals)'

'Animal Therapy Demonstration'

CAPP activity teams' occupational therapists, physical therapists, volunteers and therapy dogs,

will demonstrate the AAA, AAT, AAE activities.

抄録

柴内裕子氏	(公益社団法人 日本動物病院福祉協会 顧問 赤坂動物病院 院長)	4
中川美穂子氏	(社団法人 日本獣医師会 学校動物飼育支援対策検討委員会副委員長 / 中川動物病院長 / 全国学校飼育動物研究会 事務局長 / 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰)	5
前川哲也氏	(お茶の水女子大学附属中学校 教諭 (理科) / NPO 法人 日本ヒューマン・アニマル・ボンドソサエティ (J-HABS) 理事 / 気象予報士 / 環境カウンセラー (市民))	7
柴内裕子氏	(公益社団法人 日本動物病院福祉協会 顧問 赤坂動物病院 院長)	8

記録集

・「子どもたちに、意義ある動物体験を与えるために」		
中川 美穂子氏 (社団法人 日本獣医師会 学校動物飼育支援検討委員会副委員長 / 中川動物病院長 / 全国学校飼育動物研究会 事務局長 / 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰)		13
・「人と動物を大切に作るヒューマン・アニマル・ボンド教育の実践」		
前川哲也氏 (お茶の水女子大学附属中学校 教諭 (理科) / NPO 法人 日本ヒューマン・アニマル・ボンドソサエティ (J-HABS) 理事 / 気象予報士 / 環境カウンセラー (市民))		23
・「21 世紀子どもたちを支える動物たち公益社団法人日本動物病院福祉協会 CAPP 活動から」		
柴内 裕子氏 (公益社団法人日本動物病院福祉協会 顧問 / 赤坂動物病院 院長)		31
・「アニマルセラピーの現場再現」		
柴内 裕子氏 (公益社団法人日本動物病院福祉協会 顧問 / 赤坂動物病院 院長)		37

座長メッセージ

Chairperson's Message

柴内裕子 Hiroko SHIBANAI

公益社団法人 日本動物病院福祉協会 顧問 赤坂動物病院 院長

Advisor, Japan Animal Hospital Association (JAHA) Director, Akasaka Animal Hospital



アニマルセラピーという言葉が社会に浸透し、様々なところで耳にするようになりました。動物が人間にもたらす社会的、精神的、生理・身体機能的効果について注目が集まり、福祉や医療、教育の現場で需要が高まっています。

公益社団法人日本動物病院福祉協会は、公益目的事業として、アニマルセラピー（CAPP ボランティア活動＝Companion Animal Partnership Program）推進のための事業を行っています。本会では、この活動をその目的により次の3つに大別しています。

- ・動物介在活動（AAA / Animal Assisted Activity）
動物とふれあうことによる情緒的な安定、レクリエーション、QOLの向上等を主な目的としたふれあい活動。一般的にアニマルセラピーと呼ばれる活動の多くはこのタイプです
- ・動物介在療法（AAT / Animal Assisted Therapy）

The term 'animal therapy' has become well accepted in our society and is now heard in various contexts. There is much attention on the social, psychological, and functional benefits (physical and physiological) that animals have on humans and the demands for animal therapy in the fields of education, welfare and medical treatment are increasing.

JAHA (Japanese Animal Hospital Association) conducts CAPP (Companion Animal Partnership Program) activities as a public interest project to promote 'animal therapies'. JAHA classifies these activities to three types, based upon their different objectives.

- ・AAA / Animal Assisted Activities
These activities are aimed to achieve emotional stability, recreational benefits and QOL improvements through interaction with animals. Most so-called 'animal therapies' in Japan are this type.
- ・AAT / Animal Assisted Therapy
This is a supplemental medical treatment involving

人間の医療の現場で、専門的な治療行為として行われる動物を介在させた補助療法。医療従事者の主導で実施します。精神的、身体的、社会的機能の向上など、治療を受ける人に合わせた治療目標を設定し、適切な動物とボランティア（ハンドラー）を選択、治療後は治療効果の評価を行います。

- ・動物介在教育（AAE / Animal Assisted Education）
小学校等に動物とともに訪問し、動物との正しいふれあい方や命の大切さを子どもたちに学んでもらうための活動。生活科や総合学習などのプログラムとして取り入れる学校も徐々に増えています。

このワークショップでは、JAHAで行っている上記3つのCAPP活動の現場で活躍している、ボランティアとセラピー犬によるデモンストレーションを行います。ご覧頂いた皆様に、活動の良き理解者となって支援していただけることを願っています。

animal intervention used in specialized human medical fields, conducted under the supervision of medical staff. The treatment is aimed to improve psychological, physical or social function and is designed to suit each patient. Appropriate animals and handlers are selected for the treatment course, and the results are evaluated.

- ・AAE / Animal Assisted Education
These activities are visits to educational facilities (schools etc) to teach children how to handle animals properly and teach the importance of 'life'. The number of schools using this program as part of their 'Life Studies' or 'General Studies' classes is increasing.

During this workshop, volunteers and therapy dogs will demonstrate the above 3 types of JAHA's CAPP activities. We hope that the audiences will understand our activity and will give us their best support after attending this workshop.

第1部 子どもたちに、意義ある動物体験を与えるために

Part 1 : Giving Meaningful Experiences to Children

中川 美穂子 社団法人 日本獣医師会 学校動物飼育支援対策検討委員会副委員長 / 中川動物病院長 /
全国学校飼育動物研究会 事務局長 / 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰

Mihoko NAKAGAWA

Vice-Chair for Humane & Science Education Utilizing School-owned Animals, Japan Veterinary Medical Association

Director, Nakagawa Animal Hospital

Secretary-General, Society for Humane & Science Education Utilizing School-owned Animals President, Japanese

Veterinary Council for School-owned Animals



最近、人間と動物の違いは、額部分の脳の発達にあると言われていました。ここは自分の活動の源であり、また知能と行動を司るもの、いわゆる心（自我）があると判ってきました。アメリカで、ある人格者だった人が、額に鉄棒が刺さった事故のあと、全く粗暴な人間になったとの実話がありますが、ここの発達のない人は人格を形成する事が出来ないのです。脳学者によれば、この脳は、興味深いことを自分で追求して何かを発見し、工夫して楽しんでいると良く発達するようで、何かを無理強いしてストレスをかけ続けていると発達しないそうです。発達できない場合は、何か一つの事しか考えられなくなったり、混乱してしまうようになるということです。この脳の発達はほぼ小学生までが大きく、それ以後の発達は容易ではありません。それで、「10才までの子どもを大事に育て、社会から守らなければ、その後はその子から社会を守らなければならないだろう」と言う言葉もあります。

その意味からも「幼児から小学校低学年の教育」は大事です。教育とは感動と感化を与えることと、教育者は言います。いまの教育界は「生命尊重の心を育む・自分で問題を見付け対処できる意欲と生きる力を培う」ことを大きな目標にしています。今、あまりにも酷い事件が多いからです。

また、次世代の理科離れが心配されていますが、あまりに動物と遊ぶ体験も、身体を使っての作業も乏しくなった結果、後に理科を理解する材料が頭にたまっていないからだとも言われています。親御さんとしても、大事なこの時期、色々な材料を子どもの傍にちりばめ、子どもが興味を持って追求する事を大事にしなければなり

ません。それが生きていく力の源になります。

「体験の伴わない、本や映像だけの知識は、知恵とはなり得ない」、また「得た体験が多いほど、後に教科書で習う事柄も難なく理解できる」、とも教育者は言います。人も動物の一種です。教育者によれば、動物体験は子どもにとって必要な体験の一つです。

なお、“ちゃんと世話ができるのか？出来るまで飼ってはダメ”という言葉をよくききますがそんなことを言っていたらほとんどの子は一生飼えないでしょう。それでは動物に対する理解も進みません。

ぜひ、大人が、子どもを育てる環境に「愛情の交流のできるペット」を置いて、子どもと一緒に育てて欲しいと思います。子どもさんが泣いて頼むならなお更、飼ってあげて感謝してもらってください。動物は子どもの心と直結しますから、おろそかに出来ない存在です。飼ってもらえたら、一生親に感謝するでしょうし、親御さんの都合で飼って貰えなかったら、一生納得しないでしょう。親御さんも一緒になって、小さな命を大事にして、子どもさんに弱い物にたいする庇う気持ちを味合わせてください。

なお、現行の小学校学習指導要領や幼稚園教育要領に「動物を飼うことと、植物を育てることが義務付けられました。飼育に際しては、「教育施設での動物飼育による教育を支援する」意味で、「地域の獣医師会組織による動物飼育に関する相談等を受け、支援する体制」が必要で、文科省も小学校学習指導要領の解説書に「支援を受けるように」と明記しています。現在、しっかり行政からの委託を受けて活動している獣医師会がみられ、他のほとんどの地方獣医師会でも、その体制に向けて準備を進めています。

It has been said, in current times, that the difference between human and other animals is primarily based on the way the forehead part of our brains develop. This part is the foundation of our action and also rules our intelligence. In other words, our sense of 'self' (ego) resides in that part of the head. There is a true story from America about a normally gentle and warm hearted man who turned into a crude and boorish character as a result of a severe harm for head (an iron bar piercing his forehead).

Insufficient development within that part of the head hinders personality development. According to brain scientists, this part of the brain develops well if people have something to discover, pursue and enjoy. However, if an individual suffers continuous and intense stress, this area fails to develop properly. Such subjects tend to obsess on one thing and they are often confused. This part of the brain develops in the time up to elementary school age but development beyond this period is not so easy. So it is often said, 'if we are not serious in bringing up our children to protect them from society, we will have to protect society from our children.'

From this, the careful education on early childhood (for infants and lower elementary school children) is significant. Educationalists say that the education is to give the child impression and the influence. As such, education has a big aim 'to nurture hearts that treasure and respect the lives of others, and to nurture motivation for solving problems with a zest to live'. This is necessary in the face of the multiple trials and tribulations in our lives.

There is also a concern about young people losing an interest in science. It is said that this is because children today have such little experience playing with animals or with any physical play. As a result they have inadequate 'material' in their brain for understanding science later on in their lives. So parents need to provide their children with an environment sufficient to help them develop an active interest for new things and for

nurturing an enquiring mind. These are the well-springs of human life.

Educationists say that 'It's not enough to survive, if knowledge just only based on books and images, and that 'the more experiences children have, the better they will understand their textbooks later on'. They also say that, because we human beings are also a species of animal, experience with other animals is essential for children.

Yet, when a child is asking for pet, their parents always say 'but can you look after the animal properly? You can only have a pet when you are mature enough to look after it well.' As the result children never have a chance to have a pet at last, so they never know about animals.

I hope more parents will keep pets (companion-animals) in the child-raising environment bringing up both simultaneously, to make a good communication between all. If a child is so eager to have a pet, or begs and cries to have one, I encourage parents to get the pet and let your child be appreciate. Animals can directly communicate with children, so they must be treated carefully. Getting a pet will result in a grateful child. Not getting one could trouble the child permanently. I hope that both of children and parents will treasure a small life.

Incidentally, current education guidelines in Japan (for kindergartens and elementary schools) obligate them to have animals and plants on the premises. In the case of keeping animals they do however need advice and support from a local veterinary association. Indeed, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology states have to be support' in their guidelines for elementary schools. So, today, there are some veterinary associations actively providing support and officially commissioned by their local authorities. And now almost of other local veterinary associations are also moving in the same direction.

人と動物を大切にするヒューマン・アニマル・ボンド教育の実践

Practicing Human-Animal Bond Education that Values People and Animals

前川 哲也 お茶の水女子大学附属中学校 教諭(理科)/

NPO 法人 日本ヒューマン・アニマル・ボンドソサエティ (J-HABS) 理事/ 気象予報士/ 環境カウンセラー (市民)

Tetsuya MAEKAWA Science Teacher, Junior High School of Ochanomizu University

Director, NPO Japan Human Animal Bond Society (J-HABS) /

Meteorologists / Environment Counselor (Citizen)



自然体験の機会が薄れているだけでなく、自然があっても積極的にふれようとしないう生徒が増えている。そんな生徒たちを前に、最も身近な自然の一つとしてペット（コンパニオンアニマル）とのつながりを通して自然や生命を大切にしようという気持ちを育みたいと考えた。そのような中で、HAB（ヒューマン・アニマルボンド）教育を提唱する獣医師と出会い、これを

テーマとした授業を2年間にわたり企画・実施した。

These days in Japan, school students have less opportunity to come in contact with nature compared to children of the past, a deficiency made worse by the fact that, even when they do get the opportunity, many students do not attempt to make actual contact with nature. Standing before classes of such students, I knew that I had to try to instill some sense of responsibility for taking care of nature and living things within them. I have done this by building bonds between them and pets, probably nature's closest representative in people's daily lives. It was in this situation that I met up with a veterinarian who was also an advocate of HAB (Human-Animal Bond) education and, as a consequence, we have been planning and conducting classes with HAB as its theme for two years.

In my first year as a HAB education instructor for junior high school students, I conducted classes teaching students how to feel, realize and become aware of the

1年目は、中学生向けのHAB教育入門編として、言葉では表しにくい「生命」「生きていること」というものを体感・体得し、気づくことをめざす授業を行った。

2年目は、「人と動物の関係」により深く注目し、「野生動物はペットではない」「動物との死別」「動物を悪者にしない」の3つのテーマを設け授業を行った。

中学生ならではの既習知識や経験を生かし、生命や人と動物の関係について考えることで、人と動物のみならず、人と環境、そして人と人の関係が良くなることを願っている。

meaning of "life" and of "being alive" - concepts that are actually difficult to express in words.

In the second year, closer attention was paid to "relationships between people and animals" and we conducted classes following the three themes of "wild animals are not pets", "animal bereavements" and "how to ensure an animal grows up trouble-free".

I hope that junior high school students will make use of the knowledge and experience they pick up from these classes and that they will think more about life and the relationships between people and animals. Ultimately I hope this will lead to improvements, not only in relationships between people and animals, but also between people and the environment and between people and people.

人と動物の健康と福祉と教育に役立つ伴侶動物（子どもたちと動物）



はじめに

近年様々な場面で、人と動物との関わりが注目されています。理由は多岐に渡りますが、今、都市化の進み中、社会環境や家族の構成が都市を中心に著しく変化し、育ちゆく子どもたち、独居の人々、孤独な高齢者等が、自然を感じ、息づく命にふれることの出来ない少子高齢化、核家族化と集合住宅化の中にある現状です。加えて、家庭や地域社会の崩壊、幼児から高齢者にまで鬱病は増加し、情動の安定を欠き、判断力を失った人々が増えていることです。そのことは多くの障害を生み、更には低年齢化する非行や犯罪、その発生の温床が拡大していることです。それは、親になる自覚を失い、妊娠中、幼少時の子どもに哺乳類として受け継ぐ様々な絆、母乳、スキンシップ、家族の団欒などを見失った結果であり、学齢まで脳のハードが完成する社会化の感受性期に、体感・体得すべき家族としての教育が出来ていないことにあります。

永い歴史を共に歩んだ動物

人類は太古の昔から、豊かなそして時には危険な大自然の中で様々な動物たちとふれあい学び人間としての感性を身につけて来ました。近年、都市化が進み自然は遠のき核家族化の進む先進国では多くの問題を抱えるようになりました。

これらの問題の解決の一助に、伴侶動物が重要な役割を持つことが実証されて、人の健康や福祉、教育にも活用され始めました。

育ちゆく子どもたちは健康な動物たちとふれあい、暮らすことによって優しい言葉、思いやりの動作、忍耐や自尊心を育み、命に気付きます。

また、障害を持つ方や高齢の方々は動物とふれあうことで、心が和み、能動的になり、脈拍や血圧の安定、心臓発作後1年目の延命率の増加、生活のリズムを整える等々が医学的にも立証されてきました。動物たちは緊張を除き、人に内在する豊かな感性を上手に引き出す名手でもあるのです。

1978年に設立した、日本動物病院協会（現）公益社団法人日本動物病院福祉協会は1986年に医学と獣医学を通じて社会に貢献する活動として、Companion animal Partnership Program（CAPP活動）をスタートしました。CAPP活動は世界共通の理念と基準を取り入れ、動物介在活動（AAA）、動物介在療法（AAT）動物介在教育（AAE）を推進してきました。CAPP活動は、依頼された施設と打合せを行い責任者間で覚書を交わし、本会事務局より各地の会員獣医師または資格を得たボランティアがリーダーと連絡を取り、チームを編成して実施しています。

施設会員数（2009年10月現在）・・・169施設

内訳

高齢者施設 121施設

障害者（児）施設 22施設

こども（学校）1施設

病院 25施設

訪問回数（2009年3月末まで）

のべ訪問回数 10、279回

のべ獣医師参加人数 18,412人

のべボランティア参加人数 84,641人

のべ犬参加数 61,325頭

のべ猫参加数 15,464頭

その他動物参加数 5,829頭

今回はチャイルドケアに焦点を合わせていますので、小児病棟での効果、AAEとしての小学校訪問内容について、画面をもとにお伝えします。

Introduction

During recent years, in a variety of differing contexts, much attention has been paid to the relationship between humans and animals. The underlying reasons are diverse but with the advance of urbanization, the social environment and structure of families have seen dramatic change, especially in the big cities. We see growing children, single persons and old people alone in a society where, as the birthrate declines, the number of elderly folk is rising, and where nuclear families and collective housing are increasing. These people rarely have any contact with Nature, or touch other living things. Furthermore, homes and communities are collapsing and the number of people suffering depression is increasing, among both old and very young, with more and more people lacking emotional stability and sound judgment. Such issues in turn create many further problems and, furthermore, we have seen the age of juvenile delinquents (and their delinquent behavior) getting younger, a hotbed that is expanding. The reason for this is that parents themselves have been losing their sense of parenthood and have failed to provide sufficient bonding, for example, in terms of breast milk, physical closeness or family conversation. Small children during their most sensitive period of development, the time when their brain function and sense of social abilities are forming are missing out on experiences and sensations that are the basis of family education.

Our Long History Shared with Animals

Humans since ancient times have acquired the capacity to feel humane through their various direct experiences with Nature's animals, both those for their enrichment and those which are sometimes dangerous. As the urbanization of recent times has advanced, so Nature has disappeared and nuclear families increased, with all the resulting problems. To help solve these problems there is now evidence that companion animals can play an important role. These animals are beginning to be used to improve people's health, welfare and education. By living and having contact with healthy animals,

growing children can learn to talk gently, behave with consideration, exhibit patience, self respect, and to treasure life. Also, when people with disabilities or the elderly communicate with animals, they seem to relax more or become more engaged. From a medical standpoint it is now understood that people's blood pressure can stabilize. Indeed, the post one-year survival rate of heart attack patients has been shown to increase and their daily life pace more regulated. Animals, with their remarkable ability to bring out people's inner feelings, can loosen their tension.

The current Japan Animal Hospital Association, as founded in 1978, started the Companion Animal Partnership Program (CAPP) as an activity to contribute to society through medicine and veterinary medicine. CAPP, following policies and standards common worldwide, has been progressing Animal Assisted Activity (AAA), Animal Assisted Therapy (AAT) and Animal Assisted Education (AAE). CAPP programs are set up, first by holding meetings with the interested institution and an exchange of contracts between the executives. Then the CAPP Secretariat contacts the appropriate local veterinarian member (or qualified volunteer leader) who organizes the team to conduct the program.

No. of Membership Institutions (as of Oct. 2009) -----
169

Institutions for the elderly ----- 121
Institutions for people with disabilities ----- 22
Children (schools) ----- 1
Hospitals ----- 25

No. of visits made (up to end of March 2009)
Total No. of Visits ----- 10,279
Total No. of Participating Vets ----- 18,412
Total No. of Participating Volunteers ----- 84,641
Total No. of Participating Dogs ----- 61,325
Total No. of Participating Cats ----- 15,464
Total No. of Other Animals Participating ----- 5,829

As, on this occasion, we are focusing on child care I would like to show the positive effects gained at pediatric wards and schools that use AAE visits.

アニマルセラピーの現場再現

Animal Therapy Demonstration

柴内 裕子 公益社団法人日本動物病院福祉協会 顧問 赤坂動物病院 院長

Hiroko SHIBANAI Advisor, Japanese Animal Hospital Association (JAHA) Director, Akasaka Animal Hospital



【内 容】

アニマルセラピーの現場を実際に見ることを希望されている動物病院関係者や市民の方は多くても、ご近所に活動場所がないのが実情です。このセッションでは動物介在活動・療法・教育の現場を実際の作業療法士、理学療法

士、ボランティアやセラピー犬たちが参加し再現します。

活動現場再現

1) 動物介在活動（高齢者施設など）

一般的に多く行われている介在活動の現場を再現します。

[Contents]

Even though many animal hospital staffs and the public are interested in seeing the actual animal therapy activities, you cannot easily find the activities in your neighborhood. In this session, our CAPP activity teams' occupational therapists, physical therapists, volunteers and therapy dogs, will demonstrate the AAA, AAT, AAE activities.

1. Animal Assisted Activity (at homes for the aged / care facilities, etc.)

We will demonstrate the most common style of animal assisted activities.

2) 動物介在療法（医療施設）

現在、東京都内の病院にて実際に動物介在療法に携わっていただいております、作業療法士と理学療法士にご協力いただき、同病院で実際に行われています療法現場を再現します。

3) 動物介在教育（小学校など）

「3つのお約束」「犬とのごあいさつ」「さわってはいけない時」「こんな時は木になろう」など、犬との正しいふれあい方について地元の小学生にも参加していただき、再現します。

2. Animal Assisted Therapy (at medical institutions)

An occupational therapist and a physical therapist, who are currently working with us in a hospital in Tokyo, will help us demonstrate the animal assisted therapy, which is actually being practiced at their hospital.

3. Animal Assisted Education (at elementary schools, etc)

We will demonstrate few examples of our AAE, 'three things to promise', 'how to greet a dog', 'when you should not touch' and 'let's be a tree', with the participation of local elementary school students.